

ESSENTIAL

Model : Akari

Photo by @akisancarema

05

APRIL 2022

エッセンシャル
人生に欠かせないもの

大事なのは
瞬間の感性

編集者のつぶやき

InterviewFile vol.05

デザイナー日記

変化する価値観

大事なのはフィーリング

新たな気持ちで。

FREE MAGAZINE

Created by designoffice CLIP 2022.05.15





ESSENTIAL



編集者のつぶやき

変化する価値観

会社を初めて半年が経過した。どこで何がきっかけだったかは覚えていないが、2年前東京へ単身赴任をしていたときに、名古屋に戻る辞令が出たときふと何かがよぎったことだけは覚えている。その瞬間思い立ったかのように、仲の良い友人を呼びだして、自分が考えている構想を思い切って話した。友人は“お前ならできると思うよ”、って背中を押してくれた。不確定要素ばかりの構想に、自信が付いた瞬間だったことだけは間違いない。大学時代にDJにのめり込んだことから、自分の人生は大きく変わった。もっと言えば、大学進学の際に、地元を離れると決断したことが大きな分岐点だったかもしれない。いつも決断を迫られる瞬間は唐突だったりする。それくらい進路を決定することは大事なポイントだろう。その一大事に関わる仕事に従事している方は、それだけ責任は重いという事を理解するべきだ。DJをしていたときは、人生で最も努力をしていた気がする。たくさん横柄な態度もしていただろうし、人がついては離れの繰り返しだった。当時付き合っていた人には、心底お礼を言いたい。ありがとう。

大人になって価値観が多様化したからといって、これがなくなるわけじゃない。誰しもが失敗した過去や思い出しなくなることもあるだろうが、どんなになくなくても消えない。むしろ、しっかりと向き合うべきだと思っている。それがどれほど怖いことなのかも理解しているが、そこに蓋をしている限りは、先に進めないこともたくさんあるだろう。そんな人の背中を押してあげられる自分でいたいとは今思っている。キラキラした世界、華やかな世界に憧れた少年は、本当に頑張っていたと思う。

それを理解してくれた人は、今でも自分のそばにいてくれた人だろう。そして、2年前、大きな目標を掲げたときに、応援してくれたのも、酸いも甘いも見てきた友人だった。名古屋に戻ってすぐに、ひとりの後輩に連絡をした。食事に誘い、自分のプランを相談した。世間はパンデミックに最初の緊急事態宣言と、驚くほど世の中は静まり返って、自分の仕事はどうなるのかと不安そうだった。それが影響してか、数ヶ月、自分の構想に力を貸してくれた。当然、まだまだ綺麗に絵を書くことすらできない当時は、後輩の力を最大限に活用しきれないまま、数ヶ月後、チームは解散したのが現実。その時、やっぱり起業やめようかな、自分にはサラリーマンが向いているんだろうなとつくづく思った。そんなこんなしているときに、妻の妊娠が発覚した。喜びと同時に不安も募り、もっと頑張ろうと心に誓った。その時から、もう1年が経過した。あまりにも早すぎる時の流れに、自分を見失いそうになった。何度も失敗を経験をしたけど、それでも最後に新しい家族の誕生をきっかけにこうして起業することができたことに、応援してくれている家族や友人、関わってくれている各企業の方々には心から感謝している。この1年近くでたくさんの変化があったが、1番は価値観だと思う。きっとこれからもっと色んな経験をして、価値観は変わっていくような気がする。物に対する価値観、働くということに対する価値観、人との付き合い方の価値観、色んな部分において大きく変化した1年だった。そこには子どもの存在が大きかったのも理由の1つだ。今はスタッフも加わり、家族に会社と守るのものが増えた以上、努力以上に結果を求められる。価値観が変わって当然と思う中で、大切な物を守るようにがんばりたい。

語る、過去と今と未来

Interview File vol.005

このインタビューファイルでは、デザインオフィスクリップが気になった人をピックアップ。主に起業家、クリエイター、フリーランスなど、多ジャンルの中から様々な形で活躍する方を取材。“過去”“今”“未来”のフェーズ毎に、パーソナルな部分を深堀り。

what's ESSENTIAL

瞬間の感性

今回は、富山を中心に北陸で活躍する DJ ASH さん。幼少期から音楽が好きでずっと音楽を楽しんできた ASH。そんな地方の DJ がコロナ禍で挑戦する次のキャリアとは何か？

山口 新(DJ ASH) / Yamaguchi Arata

中学生にバンド活動、高校生では合唱部と音楽に携わる。
その後、クラブミュージックに出会い、クラブに遊びに行くようになったことがきっかけで、クラブイベントに携わるようになり、2013年自身の DJ キャリアをスタートした。国内外のゲストとも共演し、スキルとキャリア積み重ねる。



山口新 (DJ ASH) / Yamaguchi Arata

川本：自己紹介をお願いします。

山口：自己紹介で北陸の富山を拠点にハウスやエレクトロなどのジャンルでDJ活動をしているDJASH(アッシュ)です。宜しくお願いします。

川本：DJを始めたきっかけを教えてください。

山口：最初のきっかけは金沢のクラブに遊びに行ったことですね。学生時代から音楽が大好きで、社会人になって友達と金沢のクラブに遊びに行きました。その時に、たまたま富山でDJをしていた方に声をかけてもらい、富山のクラブにも遊びに行くようになったのがきっかけでした。

川本：お客さんから演者というきっかけだったんですね。よくあることなんでしょうか。

山口：そうですね…。当然音楽好き、イベント好きな人が来るものなので、良くある話に思いますね。ライブイベントに行くとバンドマンに憧れるようなもので、同じ感覚だと思います。

川本：確かにそうですね。テレビに映るタレントやアーティストに憧れるように、クラブやライブハウスだとダイレクトにその感動が伝わりそうですね。

山口：クラブは社交の場でもあり、少し音楽だけの場所とは違うところもありますが、それがゆえによりかっこよく見えることもあると思いますよ。

川本：キャリアはどれくらいになりますか？

山口：2013年3月です。イベントもはっきり覚えていて、先輩たちが長年やってこられたイベントのオープニングだったんですけど、まだお客さんの入りもほとんどなく、先輩たちばかりだったのですが、逆にそれが物凄く緊張しました(笑)お客さんに見られるより、知ってる人に見られる方が、よっぽど緊張しますね。

川本：ご自身のキャリアの中で思い出に残っているパーティーはありますか？

山口：なかなか難しいですが、思い出に残っているという意味では、さっきのスタートした最初のイベントもそうですし、あとは、今では日本のトップDJとなったYAMATOさんが来てくれたイベントが思い出深いですね。YAMATOさんは北陸初というのもあり、かなり盛り上がりましてし、プレイにも釘付けになり、独特のスクラッチ技法は、すぐにマネした覚えがあります。なかなかできなかったんですけどね(笑)

川本：ありがとうございます。ここから少し幼少期のお話なんですけど、先ほど昔から音楽が好きとありましたが、学生時代は何をされていたんですか？

山口：中学生に上がったころは、コピーバンドをやっていました。音楽が好きなら誰もが通る道と同じですよ。王道といえば王道ですよ。担当はヴォーカルでした。歌には結構自信があって、そのせいか高校では合唱部に入りました。